

授業科目 聴覚障害 II 演習

【担当教員名】 佐藤 克郎、山口 富一		対象学年	3	対象学科	言語	
		開講時期	前期	必修選択	必修	
		単位数	1	時間数	30	
【カリキュラムポリシーとの関連性】						
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現		
◎	◎	◎	◎	○		
【概要・一般目標：G10】 聴覚障害を的確に評価するための各種聴力（覚）検査法を実施に即して習得し、学習する。						
【学習目標・行動目標：SBO】 1 各種聴力検査法を理解する。 2 実際に検査を行うことが出来る。 3 検査結果を評価することが出来る。 4 臨床例から疾患を理解する。 5 検査記録を整理し、理解して、学んだ内容を説明できるようにまとめる事が出来る。						
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1, 2	聴力検査の実際とマスキングの実際				講義（A・B合同）	
3, 4	純音聴力検査（伝音難聴）とマスキング				実技、演習（A・Bグループ別）	
5, 6	語音聴力検査（伝音難聴）				実技、演習（A・Bグループ別）	
7	自記オーディオメータ				演習	
8	閾値上検査：ABLBテスト、SISIテスト				演習	
9	インピーダンス・オーディオメトリー：ティンパノメトリー、音響性耳小骨反射検査				演習	
10	聴覚障害の臨床				演習	
11, 12	伝音難聴をきたす疾患				演習	
13, 14	感音難聴をきたす疾患				演習	
15	まとめ				演習	
【使用図書】		<書名>	<著者名>		<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)						
参考書		聴覚検査の実際 成人聴覚障害	日本聴覚医学会編 中野雄一		南山堂 考古堂	2009・3,400円＋税 2010・2,500円
その他の資料						
【評価方法】 出席・演習状況と定期試験から評価する。			【履修上の留意点】			